

【第1回】在宅医療・介護連携協議会議事録 【要旨版】

開催日時：平成29年7月25日（火）19:00～20:45

開催場所：東松島市役所 矢本保健相談センター2階 会議室

- 議事 議題1 本市における在宅医療・介護連携推進事業について
議題2 東松島市地域包括ケアシステム推進組織の役割について
議題3 今後のスケジュールについて

【委員】

東松島市での医療と介護の連携は、ある程度出来上がっていると感じる。顔の見える関係といった部分では、進捗率では60～70%くらいではないか。連携という点では患者にとって実務レベルで良い連携になっているかレベルアップしていく必要がある。大切なことは、医療者、介護者のみならず、患者や家族にきちんと届いているかという視点も持っていかなければならない。

連携の成果を明らかにしていく必要がある。ネットワークの主体、専門職側にとっての連携の良さ、成果という見方がある。専門職側の多職種連携をどう評価するかについて、盛んに研究されている。信頼できる評価尺度は少なくとも5つくらいはある。

ネットワークの主体のみならず、患者や住民の人たちにとっての成果を少しでも示せることができれば良いと思う。

民生委員から、家族から情報を得られずなかなか一歩が踏み込めず、支援ができていないという話を聞く。地域の連携、支援を受ける側、在宅で医療を受ける側で、支援を必要とする意思表示が支援する側に届かないとうまく連携が進まないと思う。

退院前のカンファレンスが病院側の自己満足になっていないか、患者や家族に満足してもらっていたのか考えていた。

相談対応も悩みながら自分たちで考えて提案をするが、私だからできるのではなく、誰でもできるようなやり方を作れたら良いのではないかな。

地域包括ケアの活動は、個人、個人では行っているのですが、成果、評価の尺度は出していかなければならない。他の先進地の話を聞いたりするのも必要だと思う。また、自分たちの仕事をもっと知ってもらい必要がある。

横のつながりがすごく見えるようになった。しかし、自分たちだけでなく、なんのためにやるのか、統一してやるのが一番大事ではないかと思う。

歯に関しては、健康な人ほど口腔ケアをしてもらいたい。そういう人たちが介護をしている人たちに良い状況、情報を伝えることができるのではないかと思う。

訪問歯科の依頼を県歯科医師会のほか、市内の窓口にもあった方が良いと思う。

東松島市の在宅医療は、石垣先生に負担を強いている状況。今後、在宅医療の需要が増えてきたとき、病院は病院、診療所は診療所それぞれの役割を担うことになるが、まだまだ足りないと感じている。在宅を進めていくうえで、ケアマネジャーが軸になると思うが、医療との連携がまだ弱いと思う。会議の場で議論を深めていきたい。

施設を通じて地域に関わらせてもらっている。そこで地域には力があると感じている。顔の見える関係があると、いろいろな形でお互いの技術や力を引き出せる。顔の見える関係を、うまく作れば良いと考えている。

医療機関と介護との情報共有のあり方で、電子媒体だと使える人、使えない人がいたり、書面であればどのようなものが良いのか。東松島市独自の部分と、新規で取り組んだほうが良いのか探していきたい。退院カンファレンスはどのような形でやっているのか教えていただきたい。

退院される方の家族の不安が強かったのですが、石垣先生の「やってみませんか」という一言で揺れていた家族が少し前向きになった。現場スタッフだけでなく、他事業所の方が来てくれると、現場スタッフも緊張感があり、それが繰り返されるとスキルアップにもつながると思う。

民生委員で一番苦労されることはどういうところか。

認知度が低い。いろいろアピールはしているが難しい。最近、地域のお茶っこ会、交流会におじゃまして情報を得ている。信頼関係ができてすごく良い感じになっている。こういうところで民生委員をアピールできればいいと思った。

石垣先生が在宅訪問をされている姿を見かけたが、そのような在宅訪問してくれる先生がいると安心できる。一方で知らない人も多いのではと感じている。

今後、若い世代のうちからいろいろな方と関わり地域を見守っていく。集会や講演会をやりながら周知を図っていくことがよりよい体制作りにつながっていくのではと感じている。

【事務局】

評価について、専門職の立場と患者、家族の立場それぞれの評価指標を考えていかなければならない。情報共有をどのように図っていくかという意見があった。地域の医療介護資源の把握、研修のあり方等、在宅医療介護連携推進事業で実施していく8つの項目に関連してくる。個別にではなく相互に関連して検討していく必要がある。

すべての情報について周知不足。主体となる住民向け周知を図りながら進めていきたい。

【委員】

ここでの取り組みを子どもたちに伝えていくことが大事。それぞれの専門職がこういう仕事をして、こういう形につながっているから、みんなが安心して暮らせることができるんだと市独自の取り組みとして実施していくことが、5年後、10年後にジワジワと形になって効果を上げていくのではないかな。

利用者、住民にとって成果が出ているのかといった検討が必要。連携はある程度とれているかもしれないが、医療、介護の従事者レベルでの話し。これに市民が入ってもらふ必要性があると感じている。

医療、介護の従事者が連携のとり方を検証し、クオリティを上げていかなければならない。

昨年度のフォーラムを通じて、医師会長や参加者が在宅医療に対して住民のみなさんに心配ないというアピールをしていた。また、住民からアンケートでももっと聞きたいなどといった声が寄せられていた。

医療、介護の従事者だけの連携でなく、市民みなさんを含めた連携をこれから考えていかなければならないと感じた。

終了時刻 20:45

以上